

「良質な記事ほしい」

毎日新聞「実践教室」開く

毎日新聞社の主催としては道内で初めての「新聞活用実践教室」が10月23日、札幌市の市民会館で開かれた。教師ら約40人が記者の取材現場の話やNIE活動の実践報告に熱心に耳を傾けた。

まず、毎日新聞北海道支社報道部根室の本間浩昭記者が「知床の世界自然遺産登録に向けて」と題して、ヒグマの生態の

変化を中心的に床取材の舞台裏を披露。まだ、野生生物との「共生」に向けた取り組みを始めた段階である現状を話した。続いて4教諭が実践と課題を報告。北海道立七飯高の高瀬容子教諭はNIE実践校の制度について「もとと気楽に、短期間の新聞提供を受けることが出来ないか」とシステム上の改善と予算上の

措置を訴えた。続いて札幌市立幌西小の斎藤拓也教諭は、「児童に興味や関心を持続させ、息の長い追求を可能にする」例として、女子マラソンの高橋尚子選手が五輪出場権を逃したレースの毎日新聞夕刊の一面記事を取り上げ、「良質な記事」の提供を求めた。

また、同市立月寒中の三上久代教諭はNIEア

中日貿易の歴史（上）



には指導書のよくなものが無い。体系化、理論化したものが欲しい」と話した。最後に、道立士別商業高の毛利禎晴教諭が、新規の人生相談を題材にして、各生徒に回答を記

12月3日に

全道NIE研究大会

自己満足に終わってしま
い、効果が出ないことも
ある」と取り組みに当つ
て陥りがちな弊害を述べ
た。

第9回北海道NIE研究大会兼第14回北海道新聞教育研究大会（北海道NIE推進協議会、北海道新聞教育研究会主催）が12月3日、札幌・平岸中学校で開かれる。午後1

時過ぎからの開会式に
続き札幌・山の手南小6
年生（朝倉一民教諭）と
平岸中3年生（鈴木直教
論）の公開授業がある。
次いで北海道新聞記者
が、この夏の全国高校野
球大会の覇者、駒大苫小
牧高の選手と監督との
「固い絆」などをテーマ
に取材報告。さらに、N
I E実践校である札幌・
百合が原小の菅原隆司
教諭ら3人が実践発表
する。

参加希望、問い合わせ
は北海道N I E推進協
議会事務局（℡011・
210・5802）へ。

北海道N・E推進協議会 役員 (2004年10月現在)

(故称略)

顧問	相馬	秋夫	北海道教育委員会教育長
同	松平	英明	札幌市教育委員会教育長
会長	山田	家正	北海道開拓記念館館長
副会長	金丸	浩一	北海道教育委員会生涯学習部学校教育局長
同	佐々木	一壽	札幌市教育委員会学校教育部長
同	日下部	憲一	北海道新聞教育研究会会长 (札幌市立米里中学校校長)
同	若山	茂樹	十勝新聞教育研究会会长 (帯広市立南町中学校校長)
同	村田	正敏	北海道新聞NIE委員長 (取締役経営企画室長)
幹事	田中	英也	朝日新聞北海道支社編集総務兼報道部長
同	島崎	彰	時事通信札幌支社長
同	山田	茂樹	苦小牧民報札幌支社長
同	島田	英重	北海道NIE推進協議会事務局長
監事	長原	敏夫	読売新聞北海道支社編集部次長
同	露久	孝一	産経新聞札幌支局長

札幌・百合が原小学校



新聞通じ “心の痛み” 考える

すっかり寂しくなった校庭の花壇を雪虫が飛び回り始めた10月中旬。札幌の北にある百合が原小学校（田崎一郎校長、児童数650人）を訪ねた。新聞記事を駆使した5年3組の「心を育てる授業」を見学するためだ。

(北海道新聞NIEスタッフ・江本 麻貴)

災害の心構えも勉強

「この写真はなんだと
思う?」。担任の菅原隆
司教諭が子供たちに問い
かける。「芸術のように
も見える」、「うん、絵
かな?」、「なんだか気持
ち悪いな」とみんな思い
思いで発言するが、あま
りピンと来ない様子だ。
菅原先生が見せたのは、
学校のそばを流れる創成

川の河川敷に何者かか
スプレーで描いた落書き
の写真。それが分かると
「みんなの川なのに…」、
「河川敷を造った人の気
持ちを考えていない」と
次々に怒りの声が飛び出
した。

次は、10月5日北海道
新聞朝刊に掲載された記
事をみんなで閲覧した。

A classroom scene showing a teacher standing and gesturing while students raise their hands.

菅原先生と思いやりの気持ちについて話し合う児童たち

毎期年間第11月曜日から1週間（05年度は11月13日）を予定している。

活動しNIEの認知度を高めたいという。期間中は、5段の共同PR広告を全国の新聞各紙に載せてもらうほか、新聞各社もそれぞれ紙面を使った企画記事や広告、独自の事

このほか著作権講座などの専門セミナー、大学生向けセミナー、親子新聞教室などを期間中に開催する。また公開NIE授業の開催も学校側に呼びかける

教育現場
一般社会
してもら
としてい
が盛んな学校やNIEF
クールは新聞づくり
が盛んな学校やNIEF
実践経験校（教師）など
どを対象に、郷土・慢
の記事などを盛り込ん

菅原先生が「みんなは落書きした人の気持ちが分かる?」と問いかける。「分からぬ」という意見が多い中、「いけないのは分かるが、落書きする気持ちも分かる」という少數意見もあった。どんな人が、どんな理由で落書きを?「ライラして、ストレスがたまつていたのかも」「目立ちたのかも」などの意見が

だつたらどんな気持ちになるかを話し合つた。菅原先生は、「自分は『しない』という気持ちをしつかり持ち、友だちは『いけないよ』と注意できる勇気を持つてほしい」と話し、子供たちには深くうなづいていた。

同教諭は「新聞を通じて人間の営みやさまざまなもの思い、願いを探つたり社会の出来事に目を向け

量などの情報を新聞か
りて、学校の近くを流
る創成川、旧琴似川、
籠川の三河川が洪水で
んらんした場合を想定
災害時の対策や心構え
についても勉強している
今後、市消防局危機管
セントラルの指導を受け
ガイドブックを作り、
校のホームページに載
て地域の人々にも呼び
けていく、という。

札幌・発寒西小の児童
が昨年、いたずら書きを
防ぐため学区内の遊歩道

出た。そして、きれいな
絵を描いたら落書きさわ
ないだろうと、一生懸念

させたい。そのきっかけづくりに新聞を役立て
い」という。

11月22日に十勝新聞研大會

▲原稿を募集します✓

学校現場からの投稿を歓迎します。NIE関連のはか学校経営や児童生徒の指導、父母地域の話題などについて400字前後にまとめてください。学校名を含め原則実名としますが、希望により匿名も可。ただし原稿にはお名前と年齢、住所、電話番号を明記してください。採用分には2千円の図書カードを贈ります。宛先は〒065-8711 札幌市中央区大通西3-6北海道新聞社内、北海道NIE推進協議会事務局(電話011-210-5802、FAX011-1210-5802)。フロッピー処理してお送りください。



熱心な取り組みについて実践発表

月4日、北海道新聞北見支社で開かれた。1昨年に続き2回目で約25人が参加、教師4人がNIE授業の取り組みなどについて実践報告した。報告に先だって、日本新聞教育文化財団が今年創設した「NIEアドバイザー」の1人、小林直樹・旭川市立東陽中教諭が記事スクラップノート

活動の仲間づくりを 北見でNIEセミナー

づくりなどこれまでの実践例を紹介。「校内、校外で活動の仲間づくりをしていくことがNIEの定着には欠かせない」とアドバイスした。

について報告。田原教諭は新聞記者を招いて行つたNIE授業、嶽山教諭は複数の新聞を使い記事の記述方法の違いを調べさせたなど、新聞記事を多角的に見る生徒の目を養っていく活動、また後藤教諭は夏休み中の新聞記事の中から関心を持つた記事を選び感想を書かせるなど新聞リポート作成活動について、それぞれ熱心な取り組みを報告した。

編集後記

午後6時前、大学の同窓会の宴会が始まる。したその時、ドドーンと突き上げるような衝撃と大搖れがきました。10月23日、あの新潟県中越地震です。テレビの速報では、居合わせた群馬県北部の温泉地は「震度5弱」。隣部屋のグループ諸氏がいっせいに部屋から飛び出し、大声で叫ぶやら携帯電話をかけ始めるやうだ。異様な騒ぎもこもつとも、震源に近い新潟県長岡市のご一行でした。

新聞やテレビを通じてつくづく思うのは、どんなに科学が発達したって自然の大災害の前には必ずすべもない、という歎然たる事実。それにしても被災住民の「あれがなさい」「これが足りない」という最低限の要求にも満足に応えられないこの世の中というものは：しかし暗いんたる気持ちに陥りました。

北海道・新聞教育研究会（会長・日下部憲一札幌市立米里中校長）は、同会を発展的に解消し、組織を再編したうえで新たに「北海道NIE研究会」（仮称）として来春設立をめどに再スタートを図ることになり、近く参加者の募集を始める。

同研究会は1991年の発足以来、学校新聞づくりなどの研究・実践活動を進めており、現在は札幌市内の小、中学校教師を中心に50人余りが参加している。道内では

同様組織として十勝新聞教育研究会、苫小牧教育研究会新聞部会などがある。

近年、学校現場でNIEへの関心が高まり、一般日刊新聞を教材として活用する先生が増えてきた。こうした機運を背景に、教師自らNIEに関する研究・実践活動をより組織的、効果的に進めるべきだ、との声が高まり、道内では初めての教師たちの自主組織・NIE研究会プランが具体化した。これまでの小・中学校だ

けでなく、高校の大学の研究者らに織への参加を呼び行くという。活動は学校新聞も含め学校教育にIEを位置づけ、導方法を確立して主要な研究テーマ間の交流や換の機会ができるとしていく。北海道推進協議会と連携してIEの普及・啓発努力。新聞やインターネットで道内の教幅広く参加を呼び

先生や
も新組
かけて
づくり
どうN
学習指
いくか、
マとし
情報交
だけ増
道N I
携して
発にも
ンタ一
師らに
かけ、

N-Eアドバイサー

全国で23人に

NIE活動のけん引役として日本新聞教育文化財団が今年設けた「NIEアドバイザー」が10月までに11都道府県23人となりました。このうち北海道からは5人の現職教師が委嘱され、各地で開かれているNIEセミナーなどの講師として活躍している。

来年3月発足を目指す「日本NIE学会」(仮称)の第2回準備会がこのほど大阪市内で開かれ、当面100人程度の会員をめどに12月から参加者募集を始めるなどを決めた。影山清四郎・横浜国立大教授ら設立発起人側から、未だ現役で活躍する

活動内容は①NIEに関する理論と実践を学術的に整理・体系化し、発展させる②NIEに関心のある実践者、研究者、一般市民、メディア関係者らに交流の場を提供する③機関誌その他の図書を発行し広く活用してもらうなど、

もっと整理すべきだ」、「新聞社への正式な参考要請もまだないのに、来年3月旗揚げとは 急すぎる」、「本部は財団内より大学などに置く方が学会の趣旨にかなうのではないか」などの疑問の声が出ており、発足まで曲折がありそう

NIE研究会 参加者募集中

研究・実践をより深く

活動経費は会費や新聞社などからの助成金でまかない、教育行政機関にもなんらかの支援を働きかける。また、組織は事務局部門、研究部門で構成し、研究部門には小、中、高校の校種別部会、さらに道央、道南、道北、道東の4支部を置く予定だ。

る」(NIEの大切さ、育効果をアピールする)、「助言する」(新たに実践化を図る)、「始める教師らへの相談」(助言に当たる)、「交流実践者らのネットワークづくりに寄与し、活動の交流と活性化を図る)、などの役割を担う。

一部の地域ではアドバイザー委嘱に合わせて実践者のネットワークができるなど成果を上げている。ただ、アドバイザリーには具体的な特典などはまだなく、制度をさらに普及させていくための条件整備が急務、などの指摘もある。

会員2千円、法人会員5万円)や寄付金で賄う。このうち法人会員は主に新聞社が対象で、近く日本新聞教育文化財団博物館・NIE委員会を通じ働きかけを始めるという。また、学会本部は当面、同財団内に置くことを期待している。これに対し、新聞各社担当者でつくる同財団